

## 第2次東温市地域公共交通計画 パブリックコメント対応表

No.	項目	意見の要旨（原文）	回答	提出日
1	計画の趣旨 (P2)	<p>「計画策定の趣旨」において、「誰の為にどうするか」を明示すべきである。</p> <p>現在の少子高齢化が急激に進む社会の中で、スピード感をもった検討をする為には総花的な表現よりも、具体的な目的を具体的に表現を行うことが、実現可能なプランの検討になると思うからである。</p> <p>国土交通省から通達されている「地域公共交通会議の設置及び運営に関するガイドライン」を参照の上、次述の通り、変更に関する意見を申し上げる。</p> <p>(現在)持続可能性の高い公共交通の構築を目的に・・・</p> <p>(修正)地域の需要に即した運送サービスが提供されることにより地域住民の交通利便の確保・向上に寄与できる公共交通の構築を目的に・・・</p>	<p>ご意見のありました修正文については、『地域公共交通会議の設置及び運営に関するガイドライン』としての内容となっており、計画の中で目指すべき目標の一つとして認識しておりますが、本地域公共交通計画では、運転士不足などの運行面の課題、運賃などの受益者負担の課題、公的資金などの未利用者負担の公平性等の総合的な観点から『持続可能性の高い公共交通の構築』を目標としております。</p> <p>このため、ご意見の中の「誰のためにどうするか」については、特定の地域や特定の年齢層に限らず、東温市民全体のために、将来に渡って持続可能な公共交通を維持することとしています。</p>	2/25
2	徒歩圏の表記 (P7)	<p>「平地部西部」及び「平地部東部」における徒歩圏の表記部については、公共交通（オンデマンドタクシー等）を検討するエリアなのか曖昧である。このエリアは市内で一番高齢者の人口が多いエリアであり、その需要は高いと思うので、積極的な検討をする必要がある。その中でそもそも「徒歩圏」という表現はどのような意味が潜んでいるのか？市内全域を対象に検討する計画なら、「徒歩圏」という表現は不適正なので消去すべきである。</p>	<p>この項目における徒歩圏の表記は公共交通サービスの現状・問題点が見える化するためのものです。平地部西部・平地部東部は鉄道や路線バスが比較的頻度高く運行しており、駅やバス停から近いエリア（徒歩圏）ではこれらに加えてタクシー等を利用することで概ね日常生活ができると考えられます。</p> <p>同じエリアに役割の重複する移動手段が複数運行した場合、需要を奪い合い双方の持続可能性が低下することになります。鉄道や路線バスが比較的頻度高く運行する（駅やバス停の）徒歩圏は、役割分担の観</p>	2/26

No.	項目	意見の要旨（原文）	回答	提出日
			<p>点から、新たな移動手段の導入はせず、既存の移動手段の改善や利用促進に務める必要があると考えます。</p> <p>なお、徒歩圏とは、多くの自治体で一つの日安として採用しているものであり、地域の状況によって異なるものと考えていますが、公共交通の課題である交通空白地を把握する上で重要な情報であり、不適正なものではないと判断しています。</p> <p>本計画は、市の他の施策や計画と連携して効果を発揮するものと考えており、例えば、鉄道駅の徒歩圏内の高齢者で、歩行が困難な方などへの対応は、市の福祉部門の事業との連携により対応が可能と考えています。</p>	
3	公共交通の機能と将来イメージ（P16、18）	<p>計画書全般を通して、(P.2)「2.計画の区域」に「本計画の区域は東温市全域とする。」と明記しているが、高齢者が多数住む「西部市街地」「中央市街地」「東部市街地」に関する計画に関しては一切触れていない。高齢化が急速に進む近未来の計画書において、このエリアの具体的な施策が明記されていないのは納得がいかない。</p> <p>（意見に関するお願い）</p> <p>&lt;東温市都市計画マスタープラン&gt;にある「～小さくても生活水準の向上と経済の活性化による快適な生活環境が整うまちづくりを目指して～」に照らしても、高齢者が多く住む「西部市街地」「中央市街地」「東部市街地」については「デマンド運行検討エリア」と明記した計画書をもって取り組んでください。</p>	<p>西部市街地・中央市街地・東部市街地は広域幹線や地域幹線が主な移動手段としての役割を担っています。このエリアは鉄道や路線バスが比較的頻度高く運行しており、駅やバス停から近いエリア（徒歩圏）ではこれらに加えてタクシー等を利用することで概ね日常生活ができると考えられます。</p> <p>これらのエリアでは、鉄道や路線バスの利便性を維持するとともに、駅やバス停から離れた交通空白地では、鉄道や路線バスを補完する形でタクシーをより便利に利用できるタクシー助成制度の検討を行います。</p>	2/27
4	事業 3 梅本ループ線（路線バ	先日まで実証試験を行った「牛淵団地前 BS」ルートを図面に明記する。私が乗ったときは、高齢者や子育て世	梅本ループ線は集客施設へのアクセス改善を目的の一つとして延伸を検討しています。実証運行が行	2/26

No.	項目	意見の要旨（原文）	回答	提出日
	ス) の延伸 (P24)	<p>代の親子が、社内で語らっていた光景を目にしました。よって、住民のニーズが高いと思ったので、その実態を反映させたバスルート（牛淵団地 BS 経由）を新ルート案に明記する。</p> <p>（計画なので、実現可能かは未知数であるが、最初から達成度目的の曖昧なハードルの低いプランであっては明るい未来はないと思うからである。）</p>	<p>われたルートが今後の運行ルートとして確定している訳ではなく、誤解を招く可能性があるため、現時点では既存ルートとおおよその延伸ルートを示すのみに留めます。</p>	
5	事業 14 公共交通を活用したイベントの推進 (P35)	<p>従来から実施しているスタンプラリーもいいが…脱マンネリ化のために斬新な取組を実施する。</p> <p>東温市の名所「坊っちゃん劇場」とのコラボイベントを実施し、市外・市内の多くの人に「温ったか笑顔の東温市」らしさをPRするイベントを実施する。</p> <p>役者さんとの記念写真があれば、SNS 拡散も期待できる。</p> <p>「スタンプよりも記念写真！」…そんな声も聞こえてきそうです。</p> <p>（例）</p> <p>坊っちゃん劇場の役者さんは、おしゃべりやムードづくりも上手なので、イベント内容を委託して実施する。</p> <p>役者さんとのバスツアーを通して、東温市の観光案内や思い出づくりを創出する。</p> <p>他の自治体では出来ないイベントをすることが、東温市の情報発信として拡散されると思う。</p> <p>可能なら目的地で、『いのとん』と加藤市長がお出迎えができれば、実施効果はより高い。</p>	<p>これまでの取組結果から公共交通の路線再編を行う場合、市民が内容を周知するまでに相当の時間を要することが課題と捉えており、その対策として、実績のある「のりものスタンプラリー」の実施を検討しています。</p> <p>スタンプラリーは全国各地で実施され、公共交通利用の少ない方に対してもイベントを通じて利用のきっかけを提供できる貴重な取組となっています。</p> <p>様々な方法で実施されており、幅広い世代に対応した企画やデータとしての蓄積も可能です。楽しみながら達成感が得られ、工夫次第でエリア全体の顧客を増加させ、回遊率・滞在時間増加に繋がるなど、交流人口を地域の活性化に繋げるツールとしても効果があると考えています。</p> <p>今後も効果の把握を踏まえて継続しつつ、スタンプラリーに拘らず、より効果的な利用促進の取組について、継続的に検討を行います。</p>	2/26